

## 健康・生活

- ・トイレに行きやすい環境を整え、活動の前など適切なタイミングで声掛けを行い、進んで排泄に行けるような声掛けを心がけます。
- ・一人で着脱が難しい場合はさりげなく後ろから介助したり、衣類の状態をしっかりと見てもらいながら手助けします。
- ・見通しをもって過ごせるように、目に見える形でタイムスケジュールを知らせ、始まりと終わりがわかるように支援します。
- ・未経験なこと、わからないことは事前に具体的に本人にわかりやすい言葉と同時に視覚的にも伝え不安を軽減します。

## 運動・感覚

- ・好みに合わせて様々な遊具を使用したり、動く・止まる・バランスを取るなどを取り入れた運動遊びを展開し楽しく遊びながら体幹を鍛えていきます。
- ・ボールプールに潜ったり、ハンモックに包まれたり、全身に刺激を感じる遊びを取り入れボディイメージを掴めるように支援します。
- ・手押し車やいろんなところをくぐる遊びを通して腕でしっかりと支える力をつけ手、指に力が及ぶようにし、手先の細かい動きの土台を育みます。
- ・思い切り身体を動かし情動の発散も行いつつ、活発な活動と静かな活動を繰り返すことで気持ちのコントロール力を育みます。
- ・運動遊びを中心に自信を持って挑戦できる遊びを楽しんでもらいながら小さな成功も大いに褒めかっこいい自分を感じてもらいます。
- ・無理なく新しい遊びに誘い掛け色んな遊びを経験する中で1つ1つの達成感を味わってもらい、たくさんの「できた」を積み重ね自信に繋がります。

## 認知・行動

- ・一日の流れや活動の切り替えのタイミングなどのスケジュールボードや事前の声掛けをこまめに行いスムーズに動けた時にはしっかりと褒めることを積み重ね次につなげます。
- ・活動終了時などの切り替えが難しい時は「あと(1.3.5)分したら終わり、ここまでしたら終わり」と自分で選んだタイマーや視覚カードを使い大人の力も借りつつ自分自身で切り替えていけるように支援します。
- ・できるだけ刺激になるものは排除したり、興奮が収まらない時は場所を変えるなど環境調節をし、穏やかに過ごせるように支援します。

## 言語・コミュニケーション

- ・スタッフがモデルを示すと共に、今の自分の気持ちはどれなのか、表情カードなどの視覚教材を用いて客観的に理解できるように支援します。

- ・相手の気持ちを代弁しながら、適切な言葉や行動のモデルを示し、人に近づきすぎない適度な距離感がとれるように支援していきます。

- ・知っていてほしい名詞などの言葉は日頃の絵本などで確認し、理解を深めていきます。

- ・ゆっくり、わかりやすい話しかけを心がけながら本人や周りの行動や気持ちを言語化したり「～な時は～って言ったらいんだよ」と知らせたり、大人がやり取りのモデルを示しながら、その場にあった答えを伝えていきます。

- ・不安な気持ちから、お友達に「かして」「いれて」が言えずに「せんせいいって」等といわれたときは「いっしょにいてみよう」と促したり、ロールプレイで大人や人形向かって「かして」等という練習を行っていきます。

### 人間関係・社会性

- ・気持ちが崩れてしまった時、切り替えるまでに時間がかかる姿が見られた場合は声を掛けすぎずに、落ち着くまで待ちます。落ち着いてから気持ちを聞いたり、別のことに気持ちが逸れるような声掛けをしていきます。また「そんな時は？」等の声掛けで“どうすればいいのか”を一緒に考えていきます。

- ・アナログゲームなどを用い、2人で交代するところから始めて、待つ、順番を守ることへつなげる支援を行います。

- ・刺激に反応しやすい事や、衝動的に自分のやりたい事に行動する姿がみられる場合は、周りが今なにをしているのか、相手はどんな表情しているのか、何をすべきなのか一緒に考え、整理していきます。聴覚的情報だけでは、情報を処理できない時もありますので、視覚教材を用いながらわかりやすく示していきます。